

令和 6 年 9 月 27 日現在

機関番号：34504
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2018～2023
課題番号：17KK0057
研究課題名（和文）マレーシア女性の信仰と社会参加をめぐる研究 情報化、アイデンティティ、主体性
研究課題名（英文）Faith and Social Engagement of Muslim Women in Malaysia: Informatization, Identity and Agency
研究代表者
安達 智史（Adachi, Satoshi）
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：90756826
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,100,000円
渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、マレーシアのムスリム女性を対象に、信仰と社会参加がどのような理路のもとで彼女たち自身の手により関係づけられているのかについて明らかにすることを目的としている。具体的には、インタビュー調査で得られたデータをもとに、ムスリム女性の「アイデンティティ（＝宗教や社会との関係のなかで自己をどうとらえるのか）」と「エージェンシー（＝信仰や社会への主体的な関与）」のあり方、そして実際の社会参加の現状について接近を試みる。それにより、信仰が女性の自律やシティズンシップに果たす積極的な役割や、そうした自律や主体性の実現に向けて、女性や社会が乗り越えなければならない課題について検討する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、以下の学術的・社会的意義を有している。第一に、イスラーム化と近代化が、中産階級ムスリム女性のジェンダー意識にいかなる影響を与えているのかを明らかにしたこと。第二に、イスラーム化と近代化という二つの影響下のなかで、女性たちが自身の幸せや希望を実現するためにいかなる戦略をとっているのかについて議論したこと。第三に、多民族社会マレーシアにおける、ジェンダー/エスニシティごとの、性別役割意識の共通性や差異性について論じたこと。そして第四に、以上を通じて、イスラームと現代社会のより積極的な関係をめぐる理論枠組みを構築したこと、である。

研究成果の概要（英文）：This study explores how Muslim women in Malaysia relate to faith and social participation according to their own rationale. Specifically, based on the data obtained from the interview survey, this study attempts to approach Muslim women's 'identity' (i.e. how they perceive themselves in relation to religion and society) and 'agency' (i.e. their proactive involvement in faith and society) and the actual state of their social participation. It examines the positive role that faith plays in women's autonomy and citizenship, and the challenges that women and society face in realising such autonomy and agency.

研究分野：社会学

キーワード：ムスリム女性 イスラーム化 近代化 エージェンシー 性別役割意識 ポスト世俗化

1. 研究開始当初の背景

マレーシアでは、一方で、独立（1957年）以後の近代化を通じて女性の高学歴化と労働力化が進み、他方で、その意図せざる結果として、1970年代以降、中流階級を中心とした「イスラーム化」が進行している。では、マレーシアのムスリム女性の労働力化と、イスラームへの恭順の高まりはいかにして両立するのだろうか。こうした近代化と宗教をめぐる問いに対して、本研究は、その両者の影響化にあるマレーシアのマレー系中産階級女性を対象にしつつ、社会学・文化人類学およびフェミニズムの視点から調査・分析をおこなう。社会学・人類学的アプローチを採用するのは、「イスラーム」がもつ意味領域に、ムスリム本人の内在的理解を通じて接近することを目指すためである。また、フェミニズム・アプローチを採用するのは、ムスリム女性を「従属する身体」ではなく、自己の信仰や生を自らの手で管理する「エージェント (agent)」として理解することを目指すためである。

2. 研究の目的

本研究は、マレーシアのムスリム女性を対象に、信仰と社会参加がどのような理路のもとで彼女たち自身の手により関係づけられているのかについて、社会学・文化人類学およびフェミニズムの方法・視座を通じて明らかにすることを目的としている。具体的には、質問紙調査およびインタビュー調査で得られたデータをもとに、ムスリム女性の「アイデンティティ (= 宗教や社会との関係のなかで自己をどうとらえるのか)」と「エージェンシー (= 信仰や社会への主体的な関与)」のあり方、そして実際の社会参加の現状について接近を試みる。その際、宗教的知識の獲得が女性たちのイスラームとの関わりや社会参加にいかなる影響を与えているかという点に着目する。それにより、信仰が女性の自律やシティズンシップに果たす積極的な役割や、そうした自律や主体性の実現に向けて、女性や社会が乗り越えなければならない課題について検討する。

3. 研究の方法

上記の背景と目的を踏まえ、以下の方法により調査をおこなった。

(1) 大学教員のキャリアをめぐる調査

私立および国立大学の教員を対象とし、キャリア形成、宗教意識、ジェンダー意識、および家族役割について聞き取りをおこなった。これは、学歴を通じて地位達成をおこなう新中産階級を代表するマレー系の大学教員が、いかに自律という価値と宗教に基づく家庭役割を理解し、それらを自身のキャリアと結びつけるかを検討することを目的としている。具体的には、ジョホール州の国立大学 UTM (Universiti Teknologi Malaysia) およびセランゴール州にある私立大学の UNISEL (Universiti Selangor) で働く、大学教員を対象とした。

(2) マレーシアの国立系大学生のジェンダー意識調査

マレーシアの新中産階級の一部を構成する国立系大学の学生がもつジェンダー意識を調査した。本研究が対象とするマレー系 (ムスリム) 女性の特徴をよりよく理解するために、マレー系、中華系、インド系、その他の女性および男性を比較対象とし、フォーカス・グループを実施した。具体的には、Universiti Malaya および UTM のクアラルンプール校に通う計 78 名の大学生を 17 のグループに分け、それぞれのグループにおいて、ジェンダー意識を関わるワード・シートをもとに、彼女 / 彼らが考える女性性 / 男性性の特徴や、女性 / 男性と関連する職業について議論をおこなってもらった。

(3) マレー系の起業家女性のインタビュー調査

マレー系女性が、働くこと、家族のケア、そして信仰をどのように結びつけているのかについて調査をおこなった。具体的には、マレー系女性の起業支援をおこなう団体である WENA (Women Entrepreneur Network Association Malaysia) および、NAWEM (National Association of Women Entrepreneurs of Malaysia) へのインタビュー調査、および 20 名以上のマレー系 (あるいはムスリム) の起業家女性を対象とした半構造化面接により、ライフヒストリーの聞き取りをおこなった。そこで、起業をおこなう背景とともに、信仰が、労働や家族役割といかに結びつき、また起業という選択にどのような影響を与えたのかについて聞き取った。

(4) ムスリム女性の信仰とエージェンシーの関係をめぐる理論構築

マレーシアのムスリム女性をめぐる以上の調査を踏まえ、信仰と女性のエージェンシーの関係について理論構築をおこなった。グローバル化を背景に、伝統に基礎づけられた既存のジェンダー秩序の揺らぎを多くの社会が経験するなか、宗教と女性のエージェンシーとの関係が改めて問われるようになってきている。そのなかで宗教は、女性の身体を既存のジェンダー役割に铸造するものなのか、それとも別様に振る舞える力 (= エージェンシー) を付与するものなのか、という問いがジェンダー研究を中心に議論されている。この問いに対して、ムスリム女性と関連する先行研究および、本調査の結果を踏まえ、信仰とエージェンシーの積極的な関係を説明する理論枠組みの構築を目指した。

4. 研究成果

(1) 大学教員のキャリアをめぐる調査

マレーシアの大学におけるムスリム女性教員への調査から、以下の点が明らかとなった。彼女たちは高等教育の重要性を強調するが、それは労働への参加だけでなく、子どもの教育や家族の運営といった家庭内での女性役割と結びつけられていた。また、家族をユニットとしてとらえることで、性別役割の強調だけでなく、その柔軟な運用をも可能にしていた。加えて、均衡の原則に基づく配偶者選択、教育を通じた夫との対等なコミュニケーション、時間的フレキシビリティをもつ職業選択は、イスラームの価値や家事役割を放棄することなく、労働市場への参加を実現する戦略として理解することができる。

(2) マレーシアの国立系大学生のジェンダー意識調査

マレーシアの国立大学の大学生をめぐるフォーカス・グループの結果から、以下の点が明らかとなった。第一に、女性性/男性性をめぐる一見関係のない複数の性質をめぐる認識が互いに有機的に結びつきつつ、一つの性差をめぐる認識の体系を構成している。第二に、男性性と「リーダー」役割とが密接に結びつく一方で、女性性は「フォロワー」ではなく、「マネージャー」としての役割と親和的であった。第三に、属性の違いが、参加者による性差とリーダーシップの関係づけに影響を与えていた。中国系あるいは男性は、女性のリーダーシップにより寛大であり、逆に女性、とりわけマレー系は、それにより懐疑的であった。以上の結果は、性差をめぐるステレオタイプが強固である一方で、マレーシア女性の社会参加やその指導的地位に就く余地がいまだ残されている点を示すものとなっている。

(3) マレー系の起業家女性のインタビュー調査

マレーシアのムスリム女性起業家への調査の結果、以下の点が明らかとなった。彼女たちは、一方でムスリムであることと近代的価値（e. g. 経済的自立、高い教育）を両立するものとしてとらえるが、他方で、子どもをもつことで家庭役割との同一化が高まり、それが彼女たちをタイム・マネジメント（＝子育てや家族役割の遂行）を容易とする起業やビジネスへと動機づける点があった。また、彼女たちの高い学歴や企業でのキャリア、女性同士のネットワーク組織、コロナ下での雇用不安や情報化の進展が、彼女たちの起業を後押ししていることが明らかとなった。

(4) ムスリム女性の信仰とエージェンシーの関係をめぐる理論構築

ムスリム女性の信仰とエージェンシーをめぐる理論構築を通じて、以下の複数の理論枠組みが抽出された。第一の「ポスト構造主義」は、比較的弱い立場の女性を対象にしつつ、諸構造の作用に対して、その都度みせる多様な戦術的応答のなかにエージェンシーを見出している。第二の「身体規律化論」は、非西洋社会の中産階級を対象に、女性のイスラームへの恭順にエージェンシーの源泉をみてとっている。第三の「ポスト伝統社会論」は、自身の信仰と非イスラーム的生活空間との両立という課題を念頭に置く西洋の移民第二世代を対象に、信仰への同一化を通じた社会への適応の努力にエージェンシーの可能性を看取している。以上を踏まえ、異なる社会空間のなかで多種多様な関心や優先事項をもつ女性ムスリムの多様な経験や、そこで垣間見られるエージェンシーを把握するために、（利点と欠点を併せもつ）複数の理論枠組みを駆使することがポストコロニアル・フェミニズムにとって有益な戦略であると結論づけた。

(5) 総括

本研究は、近代化とイスラーム化がともに進行するマレーシア社会において、その両者に強い影響を受けるマレー系の中産階級ムスリム女性のエージェンシーの解明を目指すものである。調査では、大学教員、大学生、起業家女性への質的調査（インタビュー、フォーカス・グループ）を通じて、ジェンダー意識および社会参加のなかで行使されるエージェンシーのあり方へとアプローチした。その結果、マレー系の女性は、近代的な社会的期待（e. g. 教育や労働）を自明なものとしてとらえ、また女性であることがそのために優位性をもたらすと考えている点が判明した。その一方で、宗教的視点から、女性がリーダーシップ的役割に就くことへのためらいや、家庭役割を強調する傾向にあった。こうした態度は、必ずしも社会参加から彼女たちを遠ざけるものではないが、イスラーム化と近代化を背景とした家庭役割と経済的役割という二重の役割を女性たちに強いる構造の存在を示唆している。こうした知見は、女性の身体や権利を「制限する宗教」というイスラーム理解を相対化するとともに、マレーシアのムスリム女性が抱える構造的な問題を照らしだすものとなっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 安達智史	4. 巻 291
2. 論文標題 イスラームと女性のエージェンシー ポスト構造主義、自己規律化論、ポスト伝統社会論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 246-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4057/jsr.73.246	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 安達智史	4. 巻 288
2. 論文標題 栗田知宏著 『ブリティッシュ・エイジアン音楽の社会学 交渉するエスニシティと文化実践』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 561～563
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4057/jsr.72.561	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 安達智史	4. 巻 289
2. 論文標題 第20回日本社会学会奨励賞【著書の部】受賞者「自著を語る」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 55-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4057/jsr.73.55	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 安達智史	4. 巻 2022年度
2. 論文標題 グローバル時代に必要な素養ー「マタイの福音」と現代ムスリムを通じて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 チャペル講話集	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 202
2. 論文標題 現代マレーシアの性差をめぐる認識とリーダーシップ 大学生を対象としたフォーカス・グループを通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 3-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 202
2. 論文標題 書評に応えて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 117-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 14
2. 論文標題 イスラームを人間化する 多文化主義社会イギリスにおけるムスリム女性とヒジャブ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代社会学理論研究	6. 最初と最後の頁 6-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 104
2. 論文標題 新中産階級ムスリム女性の労働と家事役割をめぐる意識 マレーシアの私立大学の教員を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学研究	6. 最初と最後の頁 177-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50980/shakaigakukenkyu.104.0_175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 14
2. 論文標題 イスラームを人間化する 多文化主義社会イギリスにおけるムスリム女性とヒジャブ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代社会学理論研究	6. 最初と最後の頁 6-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34327/sstj.14.0_6	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史、橋本直子	4. 巻 14
2. 論文標題 いま、ここにあるグローバルー日本から考える多文化共生 / 難民支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 GRー同志社大学グローバル地域文化学会 紀要	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2020.0000000075	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達智史	4. 巻 12
2. 論文標題 多文化主義と西欧ムスリムー「閉鎖性」と「開放性」のアイデンティティ論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代社会学理論研究	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34327/sstj.12.0_103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 日本人改宗者ムスリム女性とリベラルなイスラーム
3. 学会等名 日仏におけるイスラームと政治的・社会的価値観 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 ポスト世俗化時代の社会統合研究ー女性ムスリム、エージェンシー、アイデンティティ
3. 学会等名 関西学院大学社会学部ー研究会例会報告（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 現代ムスリム女性の社会学ーオリエンタリズムに抗し、「公共」を創る
3. 学会等名 関西学院千里国際中等部・高等部「公共」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 みんなで生きる
3. 学会等名 関西学院大学チャペルアワー講話（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 ポスト世俗化社会における女性ムスリムのスポーツ参加ーイギリスを事例として
3. 学会等名 「西洋社会における世俗の変容と『宗教的なもの』の再構成ー学際的比較研究」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 再帰的近代のアイデンティティ論ーポスト9・11時代におけるイギリスの移民第二世代ムスリム
3. 学会等名 イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 偶然の出会いが紡いだ作品としての『再帰的近代のアイデンティティ論』ー若手研究者に向けて
3. 学会等名 日本社会学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 ポスト9・11時代に生きる イギリスの若者ムスリム 「二重意識」を超越するアイデンティティ・モデル
3. 学会等名 「宗教と社会」学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 「宗教的なもの」と「世俗的なもの」 『再帰的近代のアイデンティティ論』について
3. 学会等名 基盤A「西洋社会における世俗の変容と『宗教的なもの』の再構成 学際的比較研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 近代化とイスラーム化の狭間にある新中産階級ムスリム女性 マレーシアの私立大学教員の労働と家事をめぐる意識
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 多民族マレーシア社会の性差とリーダーシップ 民族・宗教・ジェンダー
3. 学会等名 多文化関係学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 <知識>を通じた『欲望の創出』 イギリスの女性ムスリムのヒジャブ着用をめぐる契機の分析
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 現代社会と若者ムスリム 移民第二世代のアイデンティティ研究
3. 学会等名 サテライト研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 再帰的近代における西洋とイスラーム 文明の衝突を超えて
3. 学会等名 トランスナショナル研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 イスラームを人間化する イギリスのムスリム女性のヒジャブとシティズンシップ
3. 学会等名 同志社大学グローバル地域文化学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 Humanizing the Sacred 多文化社会イギリスにおける 女性ムスリムとヒジャブ
3. 学会等名 日本社会学理論学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 イギリスの若者女性ムスリムについて 『信仰』を通じた社会統合
3. 学会等名 「多文化共生」を考える研修会2019（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 マレーシア人大学生のジェンダーをめぐる性格と役割についての意識の分析 フォーカス・グループとマインドマップを活用して
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Adachi Satoshi
2. 発表標題 Islam as “Everyday Lived Religion”: A Case Study of Japanese Muslim Women Converts
3. 学会等名 XIX World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達智史
2. 発表標題 なぜマレーシア人女性はよく働き、よく家事をするのか？－大学生のジェンダー意識の分析から
3. 学会等名 立命館大学 / 近畿大学マレーシア校友会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Adachi Satoshi
2. 発表標題 Muslim and British Post-9/11: Identities in Reflexive Modernity
3. 学会等名 Workshop at Birmingham City University (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員会編、八木久美子（編集委員長）、阿部尚史・久志本裕子・澤井 充生・澤江史子・山根聡（編集幹事）、安達智史他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 Adachi Satoshi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Trans Pacific Press	5. 総ページ数 375
3. 書名 Muslim and British in post-9/11	

1. 著者名 伊達聖伸編、安達智史、小村明子、店田廣文、伊達聖伸、樋口直人、藤原聖子、増田一夫。見原礼子、Abdenour Bidar、Florence Bergeaud-Blakler、Catherine Mayeur-Jaouen、Olivier Roy、Jean-Jacques Thibon et Francesso Chiabotti、Valentine Zuber	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 298
3. 書名 フランスのイスラーム/日本のイスラーム	

1. 著者名 横浜国立大学都市科学部編、佐土原聡（編集代表）、小池治・寺田真理子（副代表）、吉原直樹（編集総括監修）、安達智史ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1052
3. 書名 都市科学事典	

1. 著者名 安達 智史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 480
3. 書名 再帰的近代のアイデンティティ論	

1. 著者名 スコット・ラッシュ、ジョン・アーリ、安達智史（監訳）、中西真知子・清水一彦・川崎賢一・藤間公太・笹島秀晃・鳥越信吾（訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 347
3. 書名 フローと再帰性の社会学：記号と空間の経済	

1. 著者名 中西真知子・鳥越信吾編、牛腸政孝、近森高明、坂井晃介、赤堀三郎、津村将章、遠藤英樹、片桐雅隆、川崎賢一、伊志嶺絵里子、安達智史、Richard Harris	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 グローバル社会の変容 スコット・ラッシュとともに	

1. 著者名 伊達聖伸・見原礼子編、佐藤香寿実、山下泰幸、山本繭子、アレックスandro・フェラーリ、和田知之、立田由紀恵、安達智史	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 イスラームの定着と葛藤	

〔産業財産権〕

〔その他〕

関西学院大学
<http://researchers.kwansei.ac.jp/view?l=ja&u=200001526&pp=100&kc=1%27A%3D0&sm=field&sl=ja&sp=1>
 Wix
<https://sadachi7.wixsite.com/sociologyofdiversity>
 Researchmap
<https://researchmap.jp/s-adachi>
 近畿大学総合社会学部
<https://research.kindai.ac.jp/profile/ja.db816bda6c8a4641.html>
 東北大学大学院文学研究科
<https://www2.sal.tohoku.ac.jp/soc/cgi-bin/wiki.cgi?page=%B0%C2%C3%A3%C3%D2%BB%CB>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	フセイン ロージラ (Hussain Rosila)	マラヤ大学・Department of Anthropology and Sociology・Associate Professor	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	ハッサン ザイヌディン (Hassan Zainudin)	マレーシア工科大学・Faculty of Social Sciences and Humanities・Associate Professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
Malaysia	Universiti Malaya		
マレーシア	Universiti Teknologi Malaysia		